

12月定例会議会特集

根室市議会12月定例会議会は、14日から17日までの日程で行われました。今週の市議団ニュースでは、橋本竜一議員と鈴木一彦議員の、一般質問の主な内容についてお知らせします。

橋本議員の一般質問



一、根室市の財政運営について

先に示された「根室市予算編成要綱」では、各種基金の活用を含めながらも「赤字」となる見込みになっていきます。橋本議員は、「赤字」の要因について市長に質問するとともに、予算編成にむけた財源確保対策について、特に市長が重視する観点を問いました。

石垣市長は、当市における次年度の収支見通しについて、人口減少や市中経済の長期低迷などにより、市税及び地方交付税に多くを見込めない一方、急務である防災・減災対策、公共施設の老朽化対策に加え、コロナ禍に起因する行政課題など多くの行政需要が見込まれており、ふるさと応援関連基金の活用を図っても財源不足が生じると述べました。

こうした状況を踏まえ、市長は、財源不足の解消に向け、従来からの「枠配分方式」の継続、「選択と集中」等を徹底したうえで、ふるさと納税については、寄付者の意向に沿って、まちの振興と発展、市民生活の向上に有効活用し、将来を見据えた施策展開を図り、当市の新たな魅力や可能性を拓く各種施策に重点的な予算配分に努める

と答えました。

二、福祉施策について

橋本議員は、介護予防に関し、この15年ほどの間に大きく変化した国の施策について述べた上で、根室市第8期介護事業計画期間の3年間（2020～22年度）でどのような視点を持って介護予防の取り組みを進展させようとしているのか、市長に質問しました。

市長は、ふまねっと運動などのこれまでの取り組み、また、さらなる取り組みとして体操や歌、脳トレ等の他、フレイル予防に効果が見込まれる音楽療法プログラムを取り入れたところ、高齢者が楽しみながら介護予防事業に積極的に参加するようになったと答弁。今後は、こうした介護予防プログラムを老人クラブや町内会など、様々な場面で、より多くの高齢者が、楽しみながらフレイル予防に継続して取り組めるよう、関係団体と協議を進めていきたいと答えました。

現在市では、指定避難所14、待機所10、福祉避難所6が指定されていますが、感染症対策を考慮した場合、これまでの収容人数の確保が困難になることから、市長は、在宅避難や親戚、知人宅等への分散避難について、市民周知を図っていると答弁。また、宿泊施設の避難所としての活用について、旅館組合と協議を進めており、可能な限り多くの避難所の確保に努めたいと答えました。

避難所における「ジェンダー平等」については、



鈴木議員の一般質問

一、災害時における避難所のあり方について

鈴木議員は、感染症対策を徹底した際の避難所の設置数と、避難所における「ジェンダー平等」について市長の見解を問いました。

避難所配置職員の約3割に女性職員を配置しているほか、今年度より防災担当に女性職員を配置するなど、避難所運営や防災対策に対する助成視点の反映に務めていると答えました。

二、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種について

鈴木議員はまず、3回目接種のスケジュールとワクチンの種類について質問。市長は、高齢者の方を3月から、一般の方を5月から接種できるよう準備を進めているが、接種時期の前倒しも含めて判断したいと答弁。また、ワクチンは、「ファイザー社」と「武田/モデルナ社」製とが約半分以上ずつ供給される予定だと答えました。

鈴木議員は、時期的にみなさん厚着で来られるので、1・2回目よりも接種に時間がかかることと、「クロス接種」についても市民のみなさんに丁寧な説明を行うよう求めました。